

第40回国際応用動物行動会議への出席および 障害者乗馬施設の見学

齊藤 朋子

連合農学研究科生物生産科学専攻動物生産学講座（博士課程2年）

1. 目 的

第40回国際応用動物行動会議に参加してポスター発表し、またイギリスとオランダの障害者乗馬施設を見学します。

2. 期 間

平成18年8月6日から8月16日

3. 場 所

イギリス・ブリストルおよびオランダ・アムステルダム

4. 内 容

①第40回国際応用動物行動会議（ISAE）への参加

国際応用動物行動会議（International Congress of the International Society for Applied Ethology: ISAE）に参加しました。平成17年夏に東京で開催されたとき、ポスター発表をするチャンスをいただきました。さらに光栄なことに、ベストポスター賞に選んでいただきました。その際大会参加費無料という副賞をいただき、今回始めて、海外の学会に参加、発表させていただくことになりました。

イギリスはブリストルというきれいな街での開催でした。東京で開催されたときよりも演題が多く（ポスター発表145題・口頭発表110題）、ポスター会場はとてにぎやかでした。自分の発表の時間の他のポスターを丁寧に見られなかったのが心残りです。牛・馬・ヤギといった「家畜」、さらには毛皮用の動物や実験動物の発表があり、とても興味深く発表を聞くことができました。家畜福祉（Animal Welfare）の研究、また、人間と動物とのかかわりの発表が多く、考えさせられる発表がたくさんありました。

発表中はたくさんの方が質問をしに来てくださいました。うまく伝えられたかは今となってはわかりませんが、とても楽しい時間でした。あちこちで学生同士が積極的に質問し、議論しているのが印象的でした。興味があるポスターを見ていると、質問する前に発表者の方に話しかけら

れたこともたくさんありました。会場全体が「積極的」で、多少雰囲気にも飲まれてしまった感じもありました。

また、11日夜のバンケットの会場で、少しテーマは違いましたが同じ牛の排泄の研究をしているイギリスの学生さんとその先生とお会いしました。数時間丁寧に議論していただきました。もう少し英語が話せれば…と思いながらも、イギリスの事情をいろいろお聞きし、日本の事情を話せる限りお話し、とても貴重な時間をすごさせていただきました。

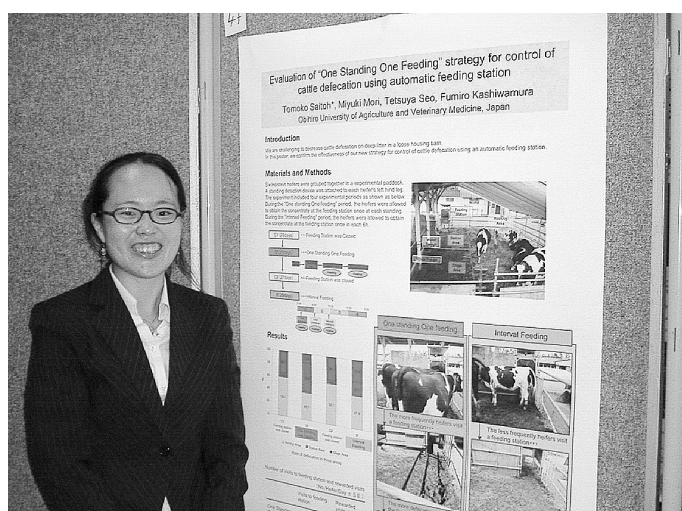
②障害者乗馬施設の見学

ブリストルでは Avon Riding Centre for the Disabled という乗馬施設を訪問しました。

残念ながら乗馬活動は夏休みということで見られませんでした。道具にこめられたさまざまな工夫や、設備にこめられたいろいろな心遣いに驚きました。道具や設備は手作りや特別にあつらえたものも多いそうです。厩舎の馬たちもとてもきれいに手入れされて幸せそうでした。緑の中のととても素敵な乗馬施設で、広い室内馬場と林の中の馬の散策コースが整備されていて、乗馬が好きな身としてとても「うらやましい」環境でした。

オランダでは、Vpg-amsterdam という乗馬施設を訪問しました。こちらも夏休みということで、人も馬たちもお休みだったようでした。お邪魔した日は雨降りだったのですが、馬場や厩舎を見せていただき、事務所で話を伺う間「一度も傘をささない」という、すべてがきれいにひとつにまとまった乗馬施設でした。たまたまそのときに厩舎にかわいらしいポニーがいたのですが、そのポニーたちは「最近障害者乗馬活動のために寄付された」ということでした。「馬を寄付する」ということに驚き、うらやましく思いました。

最後になりましたが、海外の学会に参加し、さらに障害者乗馬施設の見学をする、というのはわたくしにとって初めてのことであり、貴重な経験をさせていただいたと思っております。支援いただきました帯広畜産大学後援会には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



ポスター会場にて発表前自分のポスターと。この後たくさんの方とお話できました。

キーワード：国際応用動物行動会議，障害者乗馬